

2023 年度 流通科学大学 卒業後アンケート
調査結果報告書

2024 年 9 月
流通科学大学

目次

I. 調査概要・・・p.2

II. 調査結果・・・p.3

III. 卒業生アンケート(卒業後の既卒者向けアンケート)についての総括・・・p.15

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、本学における内部質保証活動の一環として、本学の提供する教育が卒業生にどのような学習成果をもたらしたのかを、点検・評価するために実施する。

2. 調査対象

流通科学大学・全卒業生

3. 調査方法

オンライン調査（同窓会誌に Google Forms による回答フォームの URL の QR コードを掲示して回答を収集）

4. 調査期間

2023 年 12 月下旬から 2024 年 3 月 31 日（日）

5. 回収状況

有効回答数 157 件

6. アンケート序文

流通科学大学で学んだこと、経験したことは、みなさまの卒業後のお仕事や生活にどのように活かされているでしょうか。本学は、このアンケートを通じて寄せられた卒業生の声を、本学が提供する教育プログラムの持続的な改善につなげていきたいと考えています。

一人でも多くの卒業生のみなさまからのご回答をお待ちいたしております（ご回答〆切：2024 年 3 月 31 日（日））。

なお、ご回答内容は本学のプライバシーポリシーに則り厳正に管理いたしますので、卒業生のみなさまの率直なお考えをお知らせくださるようお願いいたします。

II. 調査結果

1. 出身学部および出身学科

表 1. 出身学部および出身学科

出身学部	出身学科	人数
商学部	流通学科	46
	経営学科	33
	ファイナンス学科	9
	サービス産業学科	8
	商学科	1
	マーケティング学科	3
情報学部	経済情報学科	29
	経営情報学科	10
総合政策学部	総合政策学科	1
	経済学科	0
サービス産業学部	観光・生活文化事業学科	4
	医療福祉サービス学科	3
	観光学科	1
	サービスマネジメント学科	0
人間社会学部	人間社会学科	4
	観光学科	1
	人間健康学科	0
経済学部	経済学科	3
商学部	流通科学大学大学院	1

合計

157

2. 卒業年

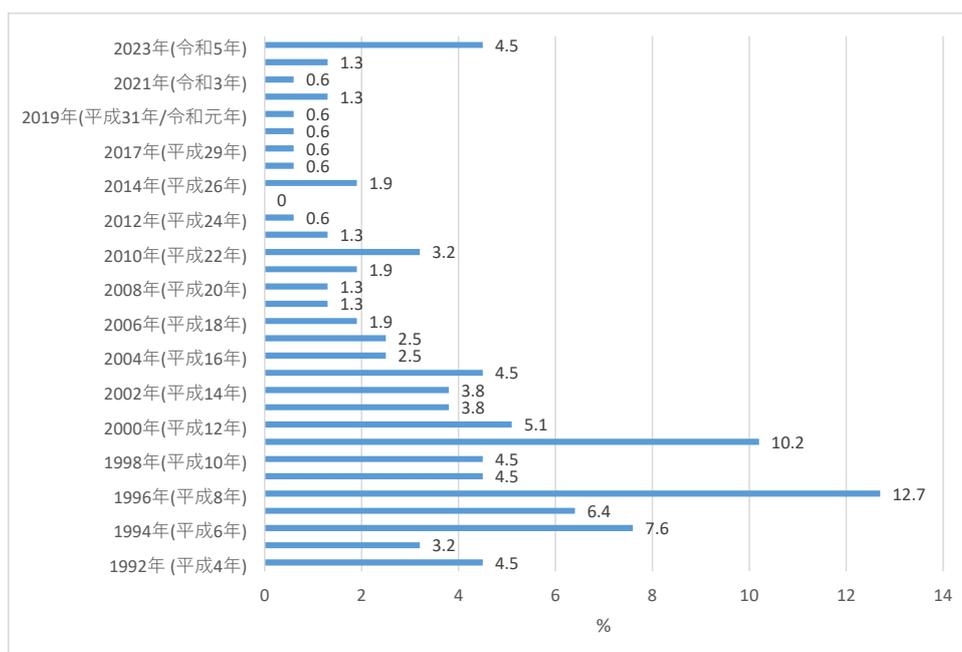


図 1. 卒業年

3. 卒業月（3月／9月）

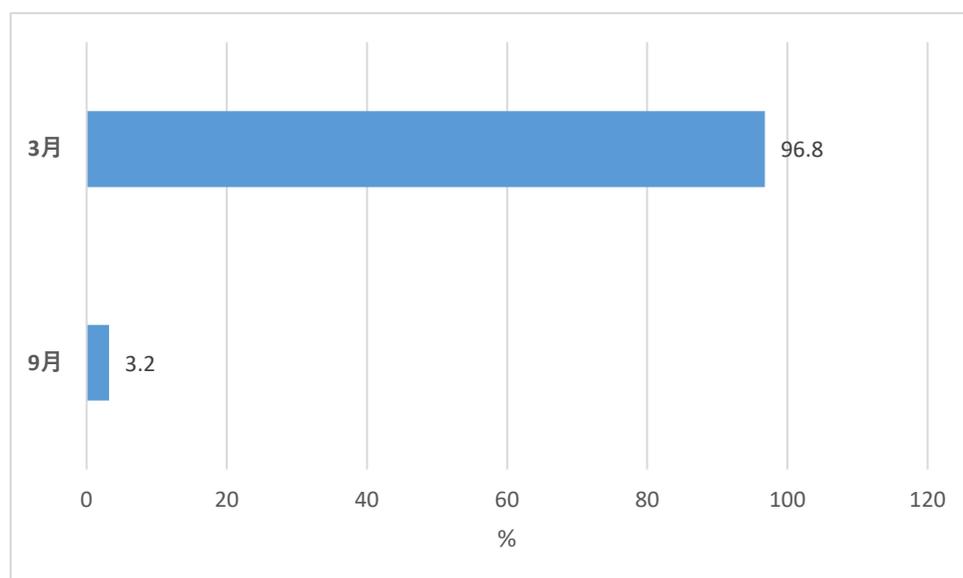


図 2. 卒業月

4. 性別（回答任意）

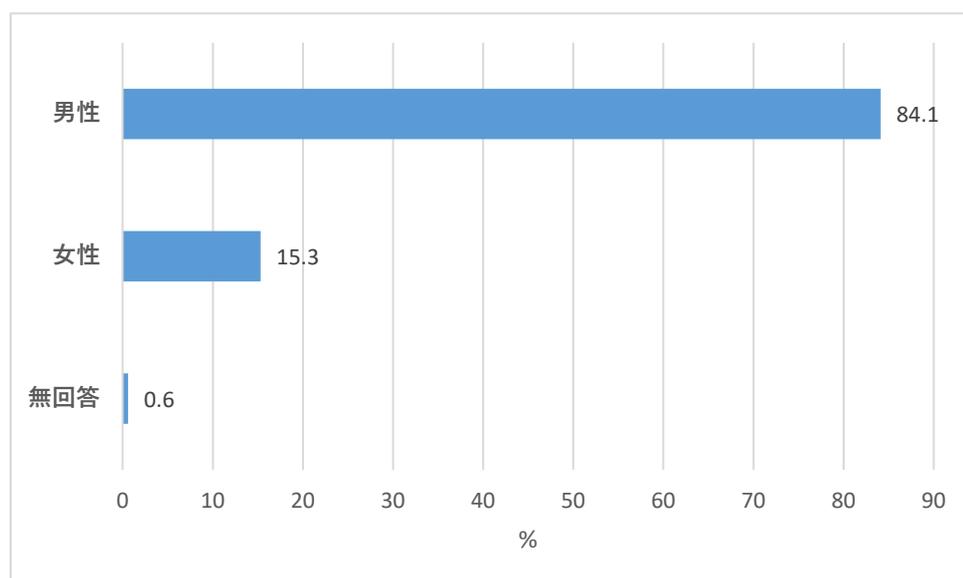


図 3. 性別

5. 現在の勤務先の業種

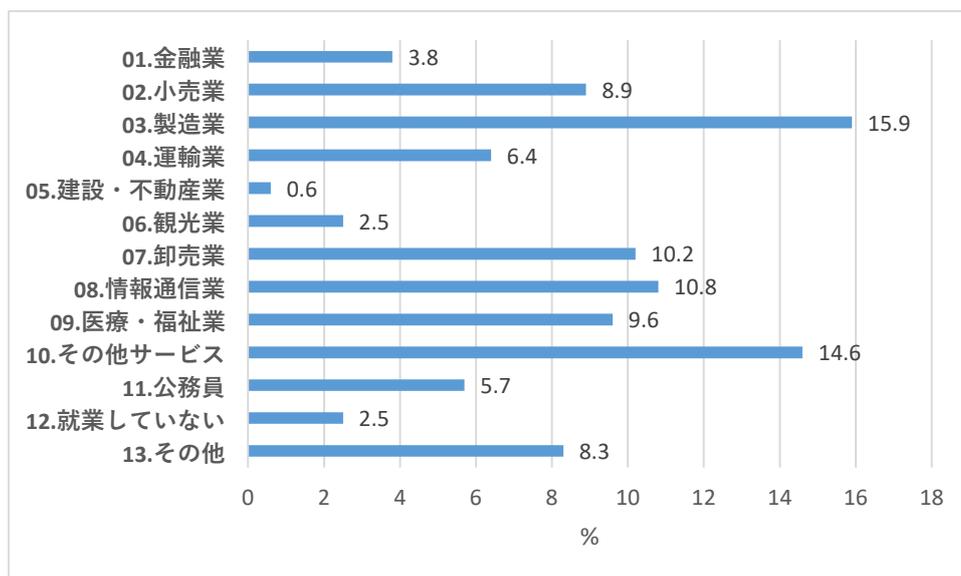


図4. 現在の勤務先の業種

現在の勤務先の業種をみると、「製造業」が15.9%と最も割合が高く、次いで「その他サービス業」が14.6%を占め、卒業生は幅広い業種で活躍している。その他では、「自営業」、「税理士」、「投資家」などの回答もあった。この結果は、卒業生の多様なキャリアパスを支援する教育の成果を反映していると考えられる。

6. 現在の仕事（職種）

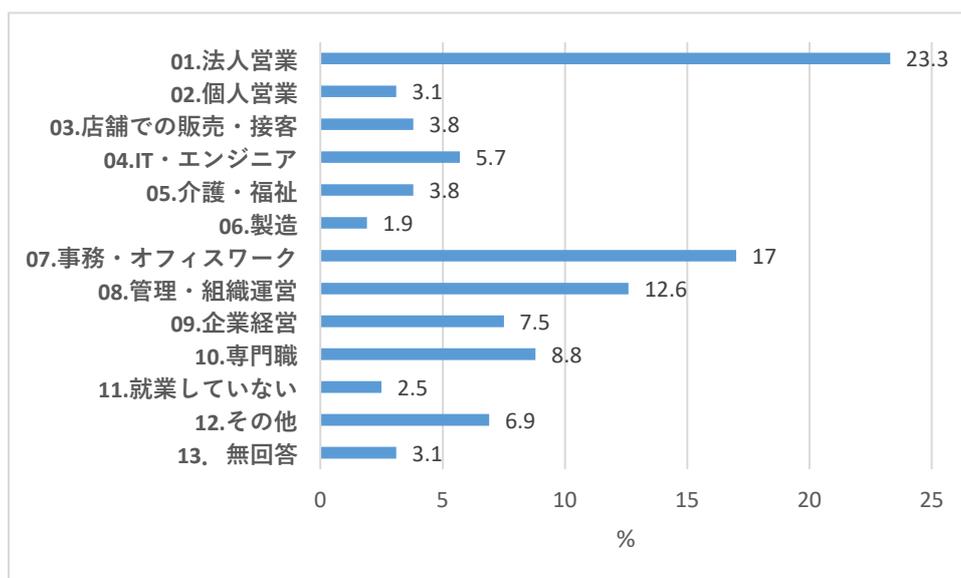


図5. 現在の仕事（職種）

現在の仕事（職種）をみると、「法人営業」が 23.3%と最も割合が高く、次いで「事務・オフィスワーク」17.0%となっている。その他では、「医師」、「大学教員」などの回答もあった。全体をみると、卒業生は営業職に多く従事しており、特に法人営業の割合が高い。これは、営業職が多くの企業で求められる重要なポジションであり、コミュニケーション能力や営業スキルが重視されていることを示している。

7. 転職経験

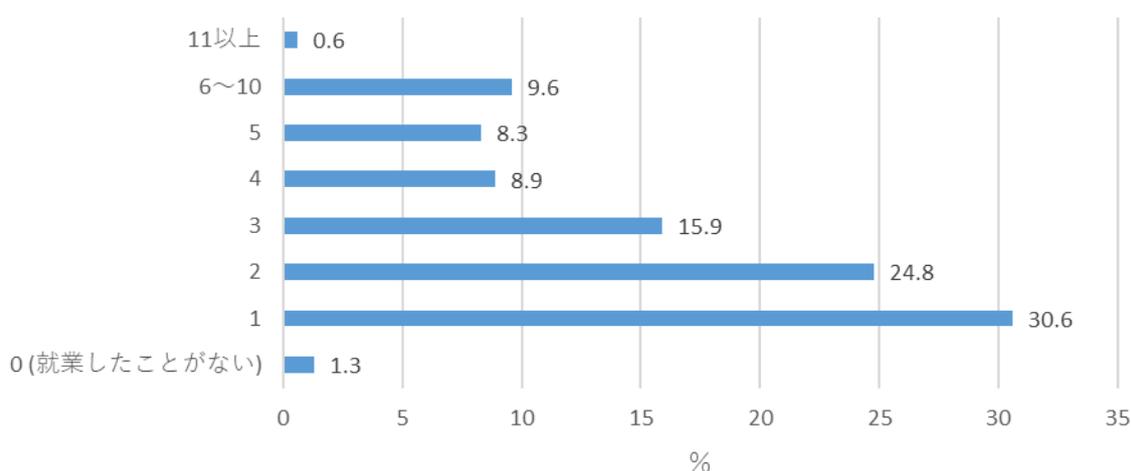


図 6. 転職経験

転職経験は、1社目が 30.6%と最も割合が高く、次いで2社目が 24.8%となっている。複数回の転職を経験する人も一定数存在し、キャリアの多様化が進んでいることが分かる。企業内異動を含まないため、実際のキャリア形成の背景にはさらに複雑な要因が存在する可能性があるが、全体としては転職が一般的なキャリア形成手段として認識されていることが読み取れる。

8. 現在の生活の充実度（仕事を含む）

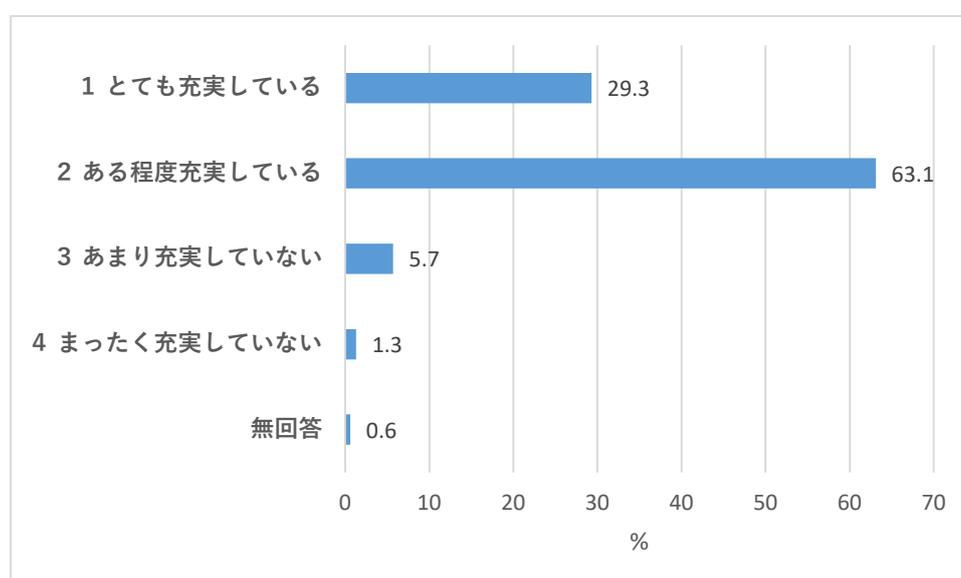


図 7. 現在の生活の充実度（仕事を含む）

現在の生活の充実度（仕事を含む）は、「ある程度充実している」が 63.1%と最も割合が高く、次いで「とても充実している」29.3%となっており、9割以上の卒業生が充実していると回答している。

その理由について自由記述で求めた。網羅的に提示することができないため、ユーザーロカール社のテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて自動要約したものを図 8.に示す。

仕事やプライベートに関する様々な要因が挙げられており、それぞれの状況で満足や不満が表現されています。仕事に誇りや使命感を感じる一方で、残業や不規則な生活に悩むケースや、やりがいを感じつつも収入面での不満を感じるケースなどがあります。家族や趣味、給与面、自己実現など、個々の状況や価値観によって満足度が異なることが示唆されています。また、自分の裁量で仕事を進められる環境や、新しい挑戦ができる状況に満足しているケースもあります。総じて、仕事やプライベートにおいてそれぞれの状況や要素が組み合わさり、個々の満足度や充実感が形成されていることがうかがえます。

図 8. 現在の生活が充実している理由

これを見ると、仕事やプライベートにおける満足度は、複数の要因が相互に影響し合うことで形成される。個々の状況や価値観によって、同じ要因が満足や不満のどちらにも繋がり得るため、一概にどれが良い悪いとは言えない。卒業生にとって、生活の充実に大切なことは、自分の価値観や優先順位に基づいて、バランスの取れた生活を構築することであるようだ。

9. どのような職場で働きたいか（最大3つまで複数選択可）

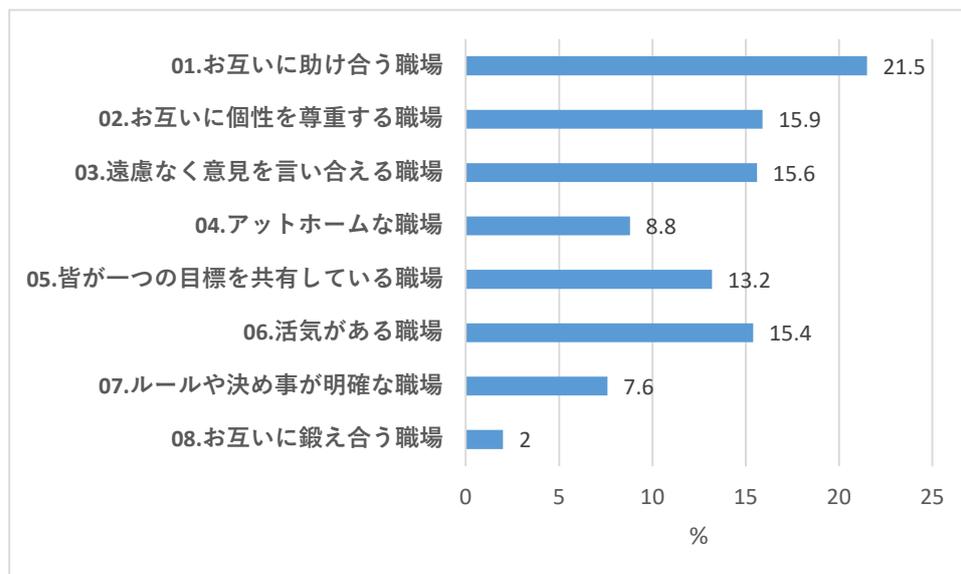


図 9. どのような職場で働きたいか

どのような職場で働きたいか、最大3つまで選択してもらったところ、「お互い助けあう職場」が21.5%と最も割合が高く、「お互い個性を尊重する職場」が15.9%、「遠慮なく意見を言い合える職場」が15.6%、「活気がある職場」が15.4%となっている。

これらの結果は、卒業生は、職場において協力、尊重、自由な意見交換を重視していることを示している。また、活気のある職場も重要な要素として認識されている。これらの要素を兼ね備えた職場が理想とされていることがうかがえる。

10. 社会人として働いていくうえで大切にしていること(最大3つまで複数選択可)

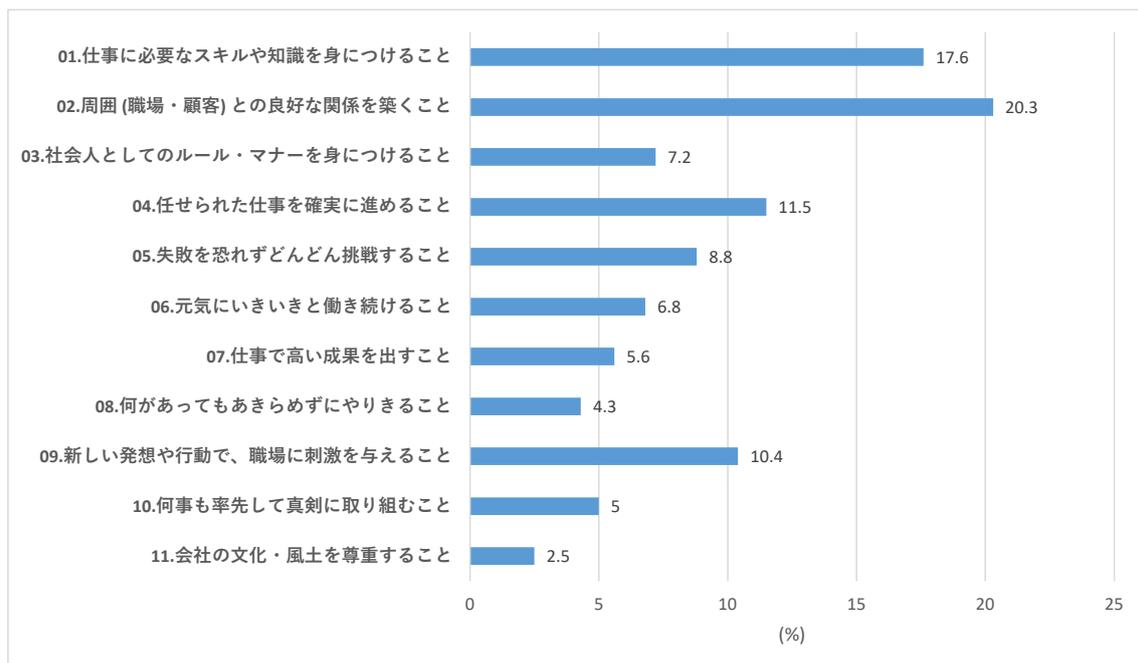


図 10. 社会人として働いていくうえで大切にしていること

社会人として働いていくうえで大切にしていることを、最大3つまで選択してもらったところ、「周囲(職場・顧客)との良好な関係を築くこと」が20.3%と最も割合が高く、「仕事に必要なスキルや知識を身につけること」が17.6%、「任せられた仕事を確実に進めること」が11.5%、「新しい発想や行動で、職場に刺激を与えること」が10.4%となっている。

卒業生は、人間関係の構築を最も重要視している。これは、社会人にとって人間関係が最も重要な要素であることが分かる。職場での協力や顧客との信頼関係が、仕事の円滑な進行や成功に直結するためと推察される。同時に、自己成長や責任感、そしてイノベーションも現代の職場で重要視されていることがうかがえる。

11. 「部下」の人数

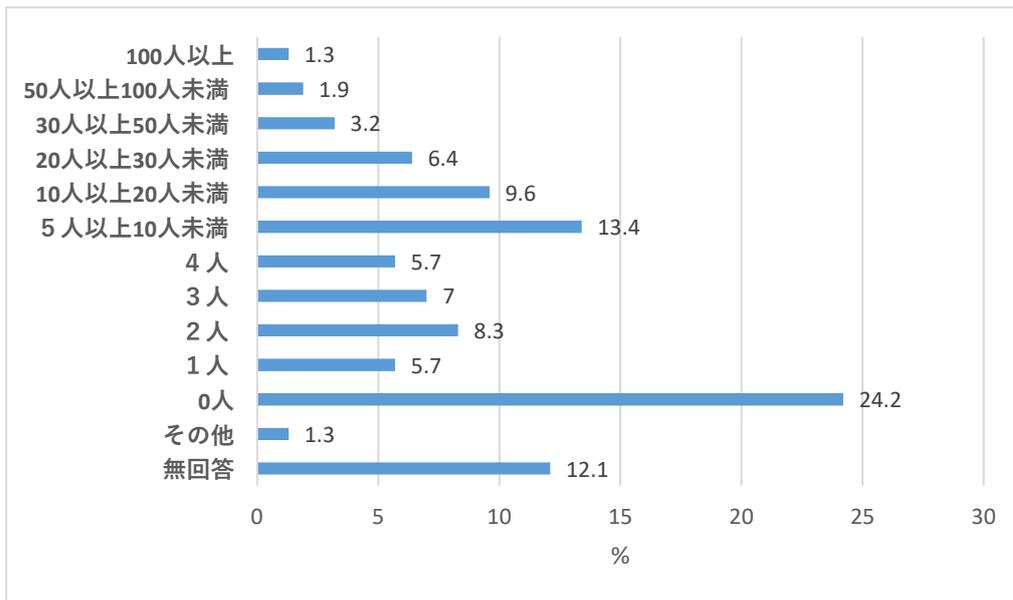


図 11. 部下の人数

部下と呼べる人が何人いるかを答えてもらったところ、「0人」が24.2%と最も多く、「5人以上10人未満」が13.4%と次いで多く、「10人以上20人未満」の9.6%へと続く。一般的に、課長、部長の部下の数はそれぞれ10人前後、20人前後とされるため、卒業生の多くが現在、課長職あるいは部長職として活躍していることがうかがえる。

12. 部下に対して期待すること（最大3つまで複数選択可）

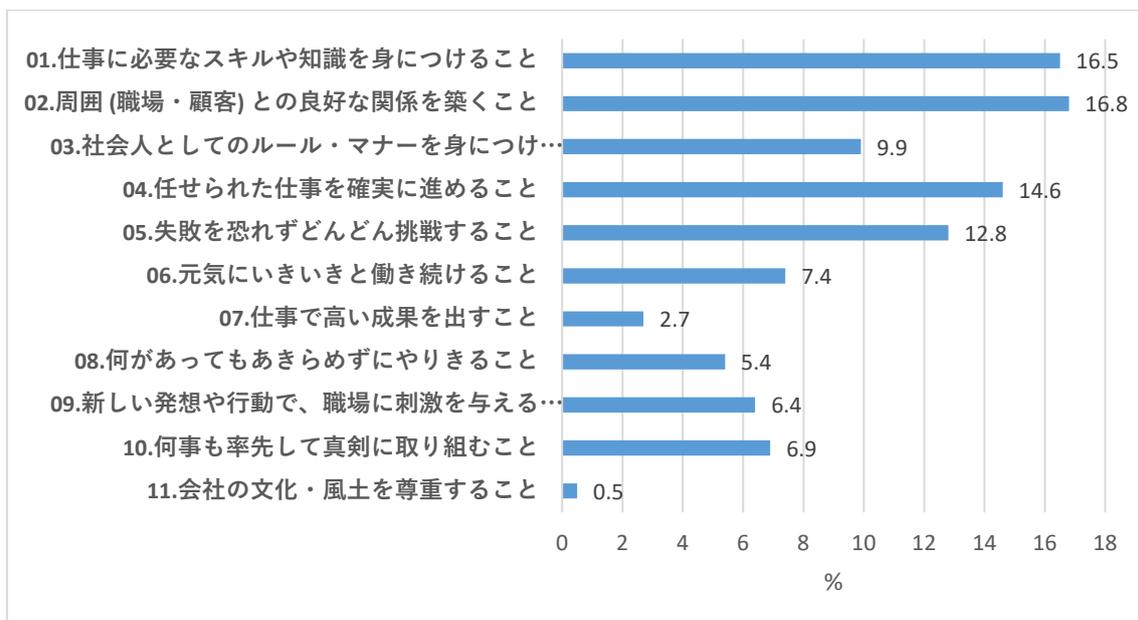


図 12. 部下に対して期待すること

部下に対して期待することを、最大3つまで選択してもらったところ、「周囲（職場・顧客）との良好な関係を築くこと」が16.8%と最も割合が高く、「仕事に必要なスキルや知識を身につけること」が16.5%、「任された仕事を確実に進めること」が14.6%、「失敗をおそれずどんどん挑戦すること」が12.8%となっている。

この調査結果から、上司が部下に対して期待することは、自分自身が社会人として大切にしていることと強く一致していることが分かる。特に「周囲との良好な関係を築くこと」、「スキルや知識の習得」、「仕事の確実な遂行」は、上司にとっても自身にとっても最も重要視する要素であり、これらが組織の基盤を形成している。また、「失敗を恐れず挑戦すること」も含まれており、部下の成長と組織の発展に対する期待が見て取れる。卒業生は、良好な人間関係、継続的な成長、責任感、チャレンジ精神が、働くことに対して欠かせない要素として考えているのだろう。

13. 仕事をする上で重視していること（最大2つまで複数選択可）

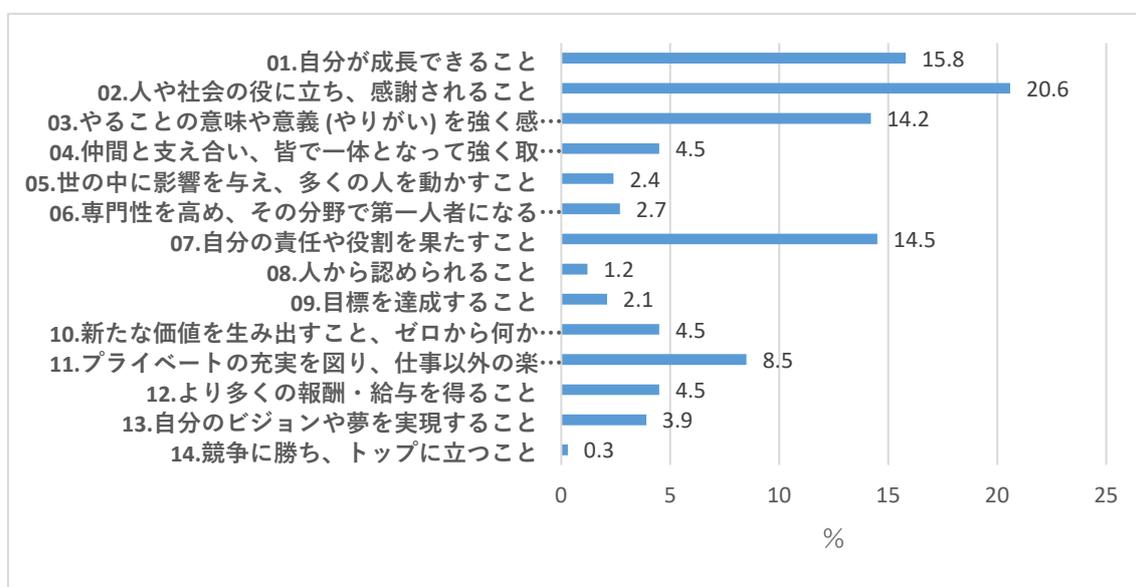


図 13. 仕事をする上で重視していること

この質問項目はリクルート「新入社員意識調査 2023」を参考としている。仕事をする上で重視していることを、最大2つまで選択してもらったところ、「人や社会の役に立ち、感謝されること」が20.6%と最も割合が高く、「自分が成長できること」が15.8%、「自分の責任や役割を果たすこと」が14.5%、「やることの意味や意義（やりがい）を強く感じられること」が14.2%となっている。

この調査結果から、卒業生は、仕事に対する価値観として、社会貢献や感謝の実感、自己成長、責任感、仕事の意義を感じる事が重視されていることが分かる。特に、社会貢献と感謝の実感が最も高い割合を占めていることから、人々が自分の仕事を通じて他者に貢献し、その結果として感謝されることを強く求めていることが示されている。また、自己成長

や責任感、仕事の意義を重視する傾向もあり、仕事を通じて自分の価値を高め、やりがいを感じる事が、多くの人にとって重要な要素となっている。これらの卒業生の価値観は、満足度やモチベーションに大きく影響を与えているのであろう。

14. 学びなおしたい分野(科目) (いくつでも複数回答可)

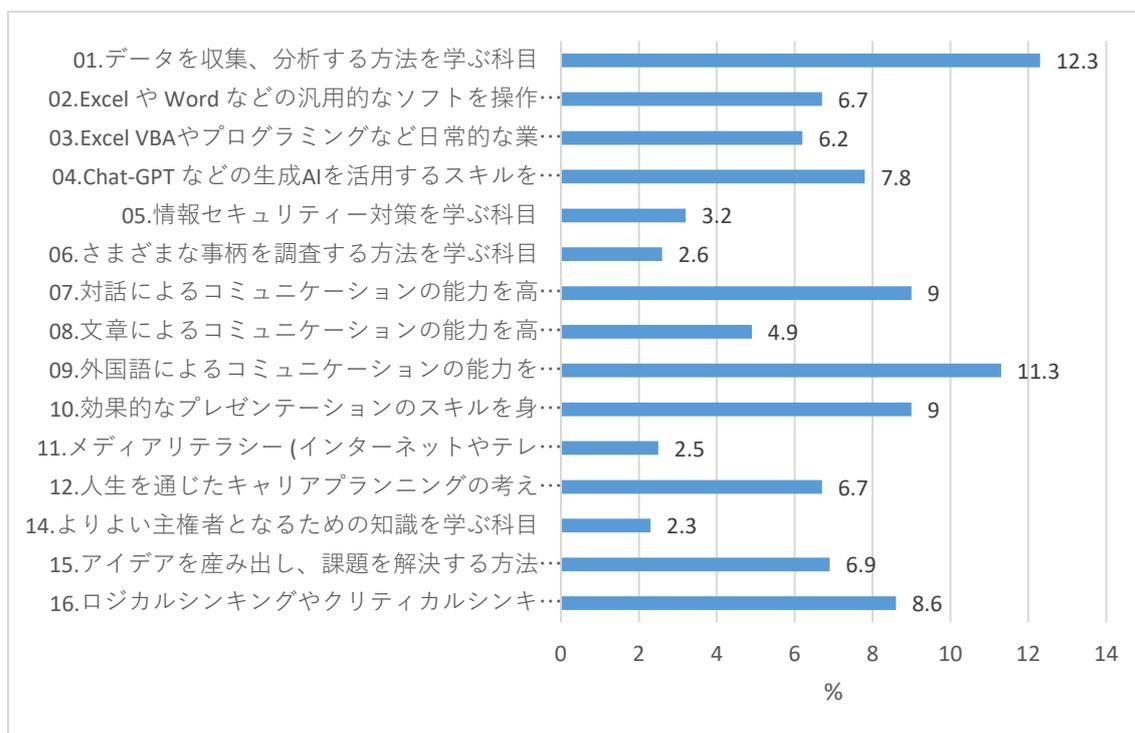


図 14. 学びなおしたい分野 (科目)

今の仕事や生活に照らして、「在学中にもっと学んでおけばよかった」、「機会があれば今からでも学び直したい」と感じるのは、「データを収集、分析する方法を学ぶ科目」が 12.3% と最も割合が高く、「外国語によるコミュニケーションの能力を高める科目」が 11.3%、「効率的なプレゼンテーションのスキルを身に付ける科目」と「対話によるコミュニケーションの能力を高める科目」が 9.0% となっている。

この調査結果から、現在の仕事や生活において特に重要視されているスキルが明確に示されたといえる。データ収集・分析スキルが最も高く評価されているのは、データに基づいた意思決定が求められる現代のビジネス環境において不可欠であるからであると思われる。多くの職場でビッグデータの活用が進む中、このスキルが不足していると感じる人が多いのであろう。また、外国語能力の向上も重要であり、グローバルなコミュニケーションの必要性が反映され、効率的なプレゼンテーションスキルや対話によるコミュニケーション能力の向上も、多くの人が不足を感じ、学び直したいと考える分野であることが分かる。

15.学び直したいと感じられる事柄（専門分野やスキルなど）（具体的に、いくつでも）



図 15. 学び直したいと感じられる事柄（専門分野やスキルなど）

今の仕事や生活に照らして、「機会があれば今からでも学び直したい」と感じられる事柄（専門分野やスキルなど）について回答してもらった。

ユーザーローカル AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>) による、学び直したいと感じられる事柄（専門分野やスキルなど）の分析を行った。図 15.は、ワードクラウドの結果である。ワードクラウドは、スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさでワードが図示される。青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

ワードクラウドで目立つ「マーケティング」「語学」「経済学」「心理学」「コーチング」「プログラミング」「マネジメント」「コミュニケーション」「会計」などの専門分野は、本学で提供されているカリキュラムや教育プログラムと一致している。これらの分野が多くの人々に「学び直したい」と感じられることから、本学の教育内容が現代社会やビジネスシーンで求められているスキルセットと合致していることが示唆される。

また、多様な分野への関心が示されていることから、本学のカリキュラムが幅広いニーズに対応できるよう、さらなる充実を図ることが求められる。

16. 学生時代の生活は、どの程度充実していたか

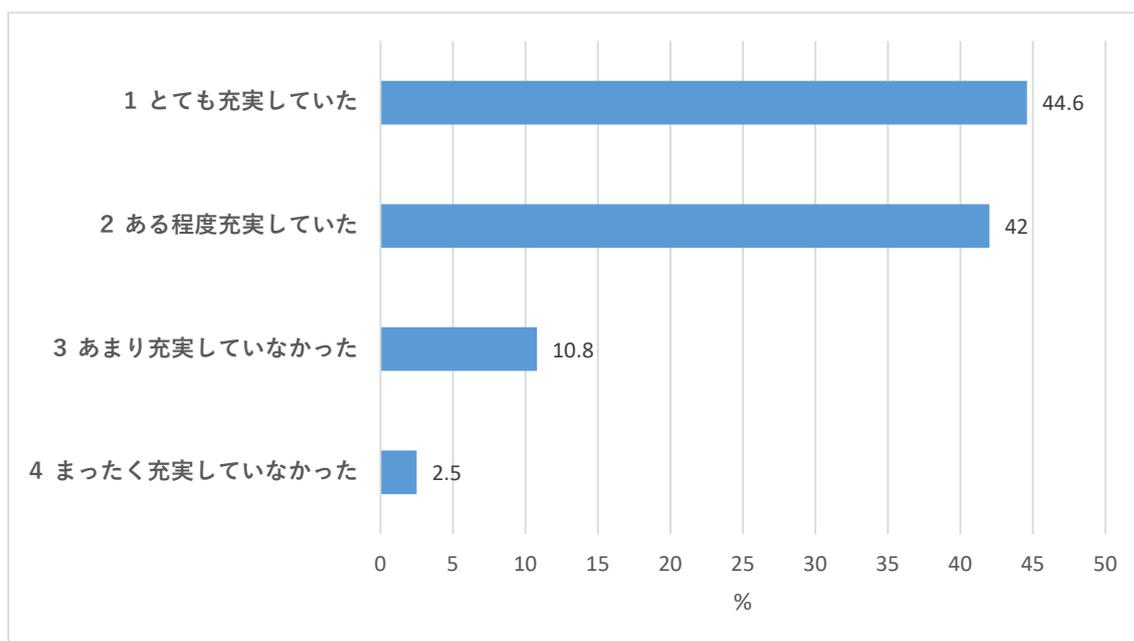


図 16. 学生時代の生活は、どの程度充実していたか

学生時代の生活は、どの程度充実していたかは、「とても充実していた」が 44.6%と最も割合が高く、次いで「ある程度充実していた」42.0%となっており、9 割弱の卒業生が充実していると回答している。

その理由について自由記述で求めた。網羅的に提示することができないため、ユーザーローカル社のテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて自動要約したものを図 17.に示す。

学部を越えて様々な分野を勉強し、学祭での出店は失敗したが多くの学びがあった。自分の好きな分野を学び、人と関わるのが好きのため、同級生やサークル仲間と幅広い人間関係を築くことができた。友人にも恵まれ充実した日々を送ったが、大学生活自体は平凡だった。バイトやボランティアなど大学外の活動が充実し、コミュニケーション能力をもう少し高めたかった。大学時代は学業やクラブ活動に取り組み、楽しい仲間との時間を大切に過ごした。友人や恩師に恵まれ、学びを通じて実学を体験できたが、社会勉強も適度に行いたかった。大学生活を通じて多様な価値観と交流し、人間関係を築いた経験が今も役立っている。部活やサークル活動、アルバイトを通じて多くのことを学び、充実した大学生活を送った。

図 17. 学生時代が充実していた理由

これを見ると、学生時代が充実していた理由は、「多様な分野の学びと学祭での経験」、「人間関係の築き方とコミュニケーション能力の向上」、「大学外の活動の充実と社会勉強の意欲」、「学業とクラブ活動の両立」、「多様な価値観との交流」が主なものとして挙げられている。つまり、学生時代が充実した理由は、多様な学びと経験を通じて得られた知識とスキル、

そして豊かな人間関係や価値観の理解にある。これらの経験は卒業後も役立っていると実感できるものである。

17. 流通科学大学で学生時代を過ごしたことについてどの程度満足しているか

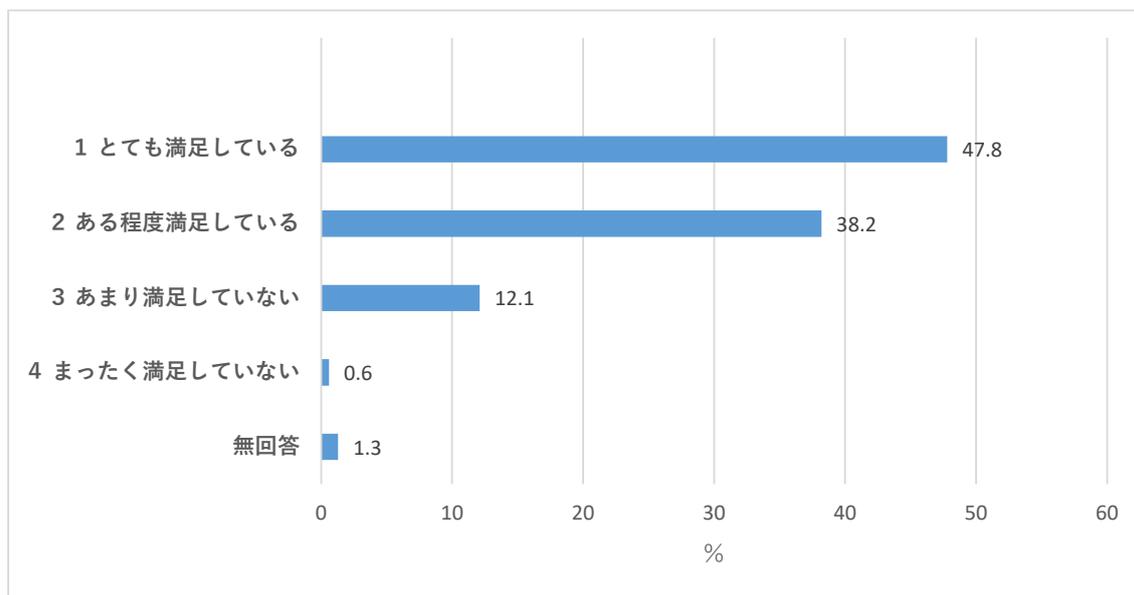


図 18. 流通科学大学で学生時代を過ごしたことについてどの程度満足しているか

流通科学大学で学生時代を過ごしたことについてどの程度満足しているかは、「とても満足している」が 47.8%と最も割合が高く、次いで「ある程度満足している」38.2%となっており、9 割弱の卒業生が充実していると回答している。

その理由について自由記述で求めた。網羅的に提示することができないため、ユーザーローカル社のテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて自動要約したものを図 19.に示す。

学びたい欲求が満たされ、勉強や人間関係に満足できる学生生活を送った。TA・SA や就活アドバイザーとして大学に貢献できたこともあり、心理学をもっと勉強していれば満足度が高かったと感じる。自宅から遠かったが、自分の目標を見出せたため充実した大学生活を過ごし、新しい大学で活気のある環境に刺激を受けた。部活には参加せず、学内活動も少なかったが、コロナの影響で活動が制限された。学生生活には満足しているが、学校の知名度が低く、自己成長に重要な 4 年間だったと感じている。授業やサークル活動を通じて多くを学び、印象に残る経験を積んだ。友人や教授との交流が充実し、自己成長につながった。大学での経験が今も役立ち、生涯の友人や支えになっていることに感謝している。学祭や講義、友人との時間が良い思い出となり、自主性を育み学びの機会を得られた。挑戦や経験を通じて成長し、自分に合った環境で学べたことに満足している。

図 19. 流通科学大学で学生時代を過ごしたことについてどの程度満足している理由

これを見ると、大学での授業やサークル活動を通じて多くを学び、自己成長の機会を得たことが満足の理由として挙げられている。また、友人や教授との交流が豊富であり、学びを支える重要な要素となっている。生涯にわたって役立つ友人や支えが得られたことに感謝していると述べられている。一方で、コロナ禍による制約が学生生活に影響を与えたことも一部に記述されていた。これにもかかわらず、学びや経験を最大限に活かそうとする積極的な姿勢が見られた。

Ⅲ. 卒業生アンケート(卒業後の既卒者向けアンケート)についての総括

卒業生アンケート(卒業後の既卒者向けアンケート)は、2023年度に2回目の実施が行われ、今年度は、アンケートをさらに充実したものとするため、調査項目および調査対象を見直し、webでアンケート調査を実施した。

結果として、十分な回答数は得られなかったが、卒業生の現況や満足度、意見について調査することができた。

今回の調査により、現在の勤務先の業種では製造業が最も多く、次いでその他サービス業が多いことがわかった。職種では法人営業や事務・オフィスワークが多いが、医師や大学教員などの職種も見られた。

転職経験については、1社目の転職が最も多く、複数回の転職を経験する人もいた。卒業生の多くが現在の生活に充実感を感じており、特に人間関係や仕事の意義を重視していた。

職場環境については、お互い助け合う職場や個性を尊重する職場が重視されており、また、社会貢献や成長、責任感を重視する傾向も強い。また、学生時代に学び直したいと感じる分野では、データ分析や外国語、コミュニケーション能力などが挙げられていた。

大学生活については、多様な学びや経験を通じて充実した時間を過ごしたと回答があり、学校生活の満足度も高い結果が示された。

本調査については、今後、回収率を上げるとともに、卒業時アンケート、在学生アンケート、新入生アンケート等とも連携の上、様々な側面からの分析を実施し、大学運営、教育改善について検討することが求められる。